

2015年6月10日 全8頁

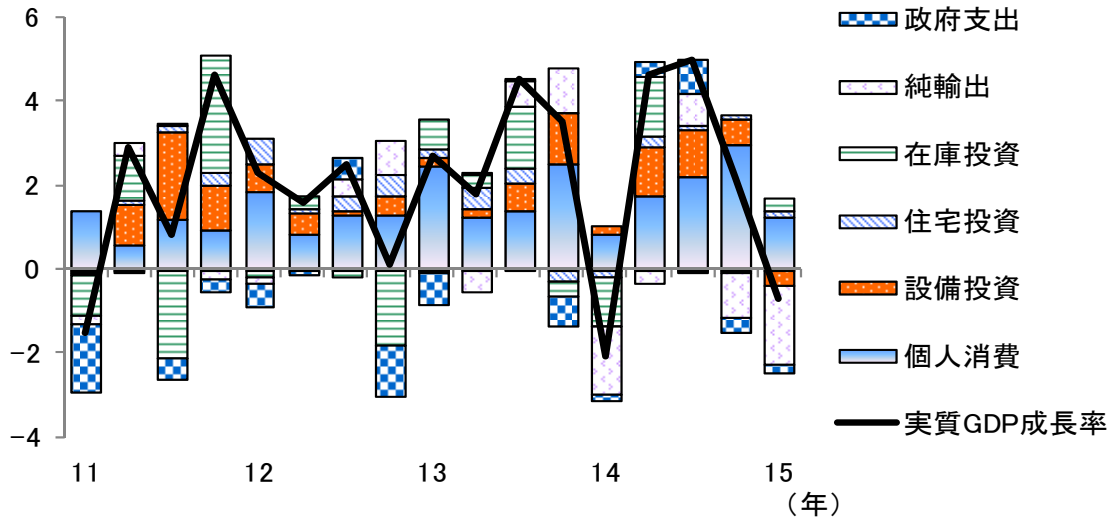
# アメリカ経済グラフポケット (2015年6月号)

2015年6月8日発表分までの主要経済指標

ニューヨークリサーチセンター 上野 まな美  
シニアエコノミスト 土屋 貴裕

## 実質GDPの推移

(前期比年率、%、%pt)



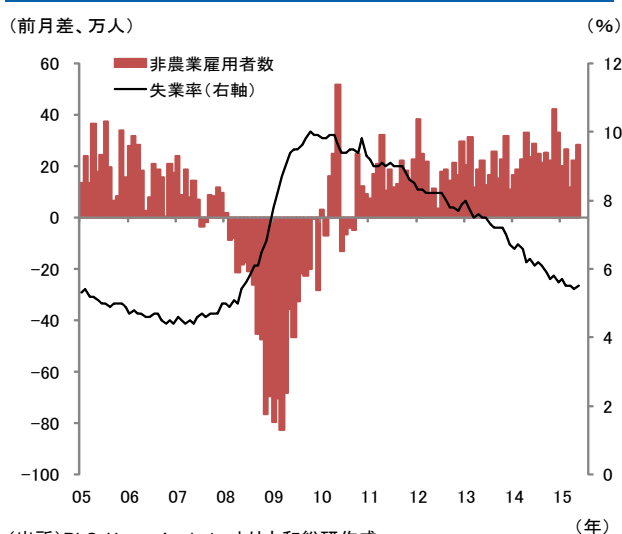
(前期比年率、%、%pt)	2013			2014			2015	
	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3
国内総生産	1.8	4.5	3.5	-2.1	4.6	5.0	2.2	-0.7
個人消費	1.8	2.0	3.7	1.2	2.5	3.2	4.4	1.8
設備投資	1.6	5.5	10.4	1.6	9.7	8.9	4.7	-2.8
住宅投資	19.0	11.2	-8.5	-5.3	8.8	3.2	3.8	5.0
政府支出	0.2	0.2	-3.8	-0.8	1.7	4.4	-1.9	-1.1
輸出	6.3	5.1	10.0	-9.2	11.1	4.5	4.5	-7.6
輸入	8.5	0.6	1.3	2.2	11.3	-0.9	10.4	5.6
寄与度								
個人消費	1.2	1.4	2.5	0.8	1.8	2.2	3.0	1.2
設備投資	0.2	0.7	1.2	0.2	1.2	1.1	0.6	-0.4
住宅投資	0.5	0.3	-0.3	-0.2	0.3	0.1	0.1	0.2
在庫投資	0.3	1.5	-0.3	-1.2	1.4	0.0	-0.1	0.3
政府支出	0.0	0.0	-0.7	-0.2	0.3	0.8	-0.4	-0.2
輸出	0.8	0.7	1.3	-1.3	1.4	0.6	0.6	-1.0
輸入	-1.4	-0.1	-0.2	-0.4	-1.8	0.2	-1.6	-0.9

(出所) BEA, Haver Analyticsより大和総研作成

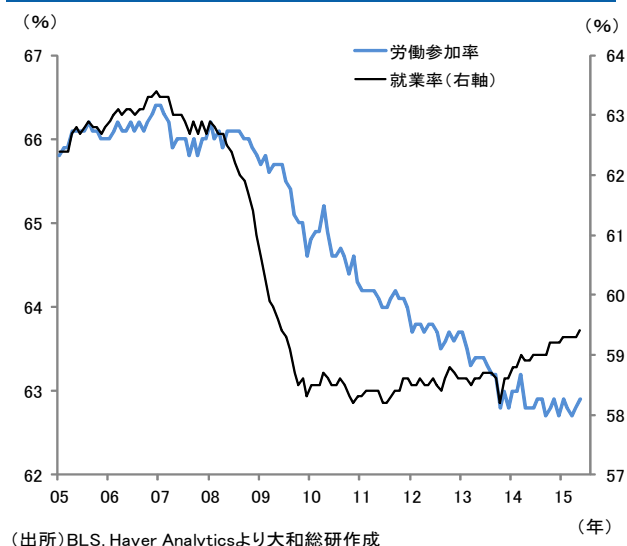
## 雇用環境<sup>1</sup>

- ◆ 5月の失業率は5.5%で、前月より0.1%ポイント上昇した。前月から上昇したものの、失業率の上昇は、主に新たに職探しを始める人が増えて非労働人口が減少したことによる。
- ◆ 非農業雇用者数の前月差は28.0万人増と増加ペースが加速し、2014年12月以来の大幅な増加幅となった。非農業雇用者数の前月差の6ヵ月平均は23.6万人増であった。

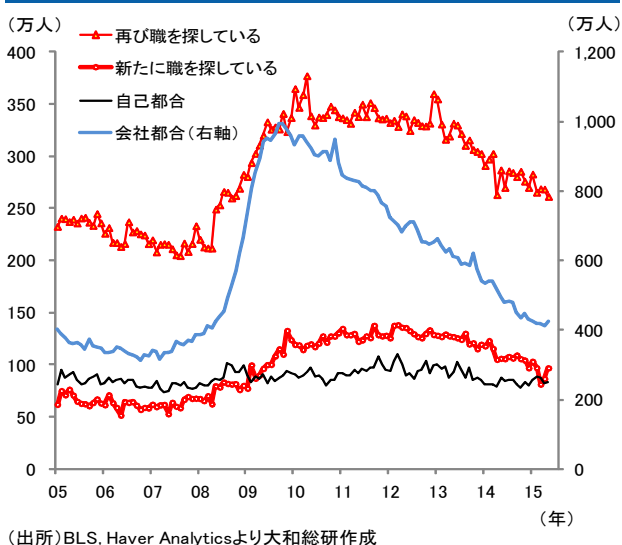
### 非農業雇用者数と失業率



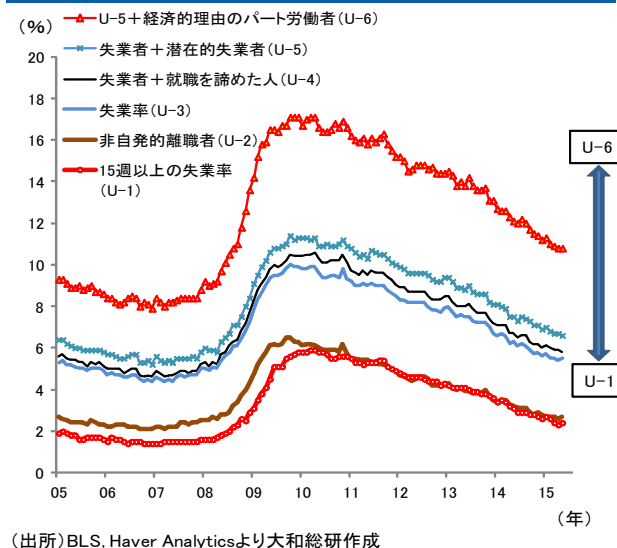
### 労働参加率と就業率



### 理由別失業者数



### 定義別失業率

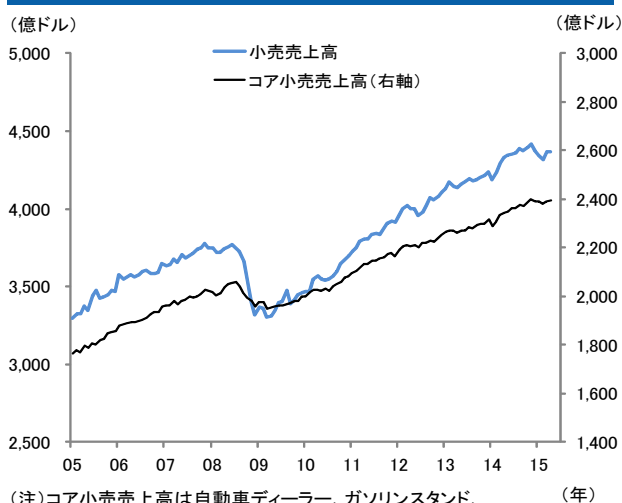


<sup>1</sup> 大和総研 ニューヨークリサーチセンター 土屋貴裕、橋本政彦「年内利上げ開始の可能性が高まる」(2015年6月8日) 参照。 [http://www.dir.co.jp/research/report/overseas/usa/20150608\\_009802.html](http://www.dir.co.jp/research/report/overseas/usa/20150608_009802.html)

## 個人消費

- ◆ 4月の小売売上高は前月と同水準であり、軟調が続いている。コア小売売上高も前月と同水準であった。
- ◆ 5月のロイター/ミシガン大消費者センチメントは、前月の95.9から90.7に低下した。前月から低下したものの、6ヵ月連続で90台を超える堅調さが続いている。
- ◆ 5月の自動車販売台数は前月比7.8%増で、年率換算では1,779万台であった。前月から増加に転じ、2005年7月以来の高水準となった。販促や低金利が寄与したほか、厳冬による繰延された需要が高かったものとみられる。

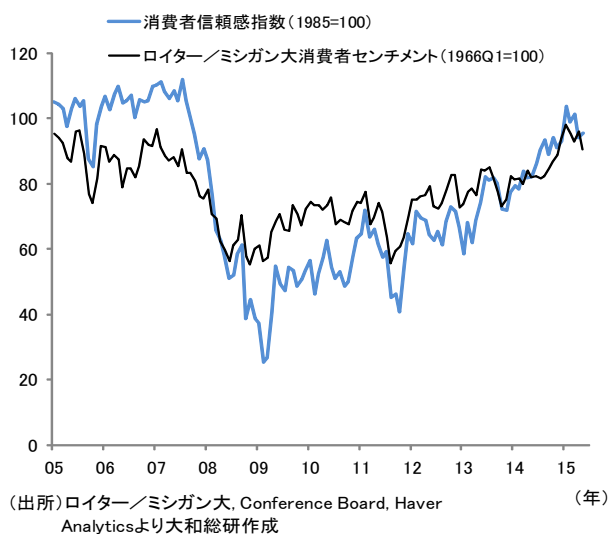
### 小売売上高の推移



### 消費と株価



### 消費者マインド



### 自動車販売台数



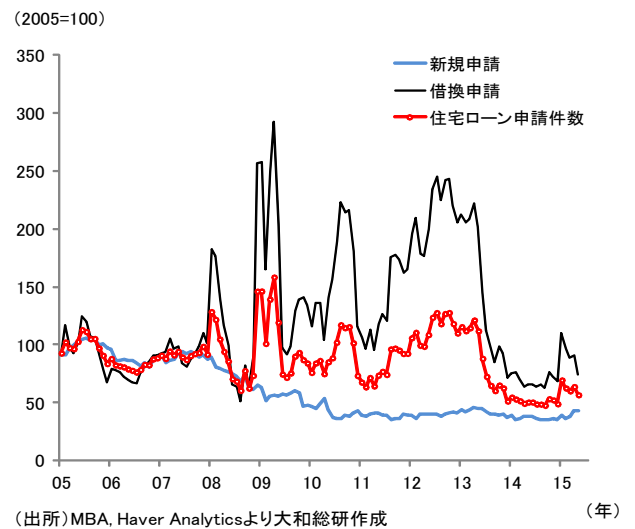
## 住宅市場

- ◆ 4月の新築住宅着工（一戸建てと集合住宅を含む）は、前月比20.2%増と大幅に増加し、年率換算で113.5万戸であった。3ヵ月ぶりに100万戸台に回復し、2007年11月以来の高水準となった。
- ◆ 4月の中古住宅販売（一戸建て）は、高水準であった前月から減少し、前月比3.7%減の年率換算443.0万戸であった。中古住宅の需要に対して物件の在庫が不足し、住宅価格を押し上げたことが影響したものとみられる。
- ◆ 4月の新築住宅販売（一戸建て）は前月比6.8%増加し、年率換算で51.7万戸であった。中西部における販売が大幅に増加し、前月の落ち込みから回復した。
- ◆ 3月のケースシラー住宅価格指数（20都市）は前月比で1.0%上昇し、7ヵ月連続の上昇となった。

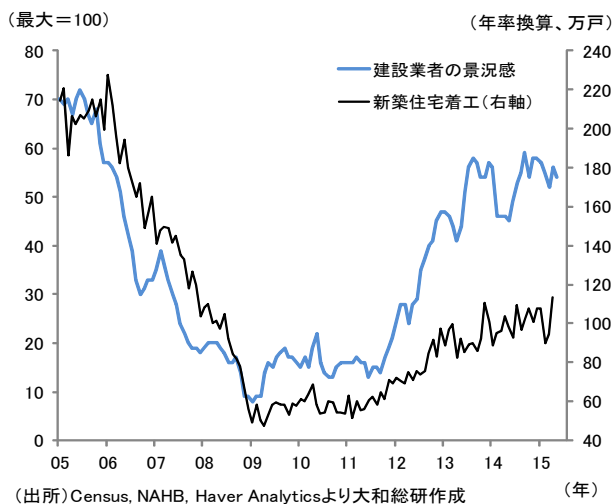
### 住宅販売（一戸建て）



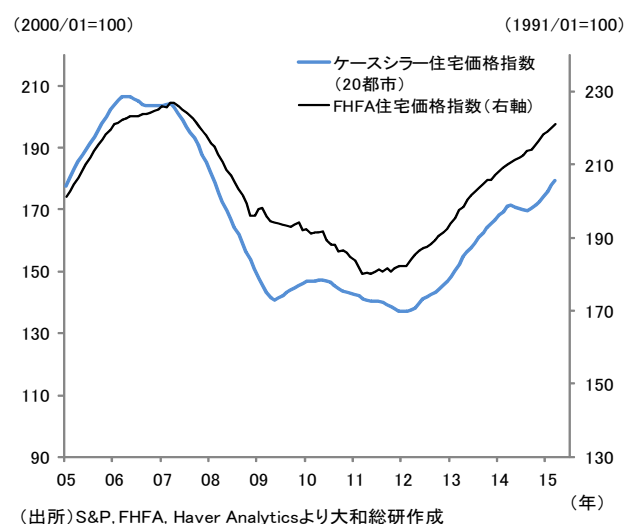
### 住宅ローン申請件数



### 住宅着工と建設業者の景況感



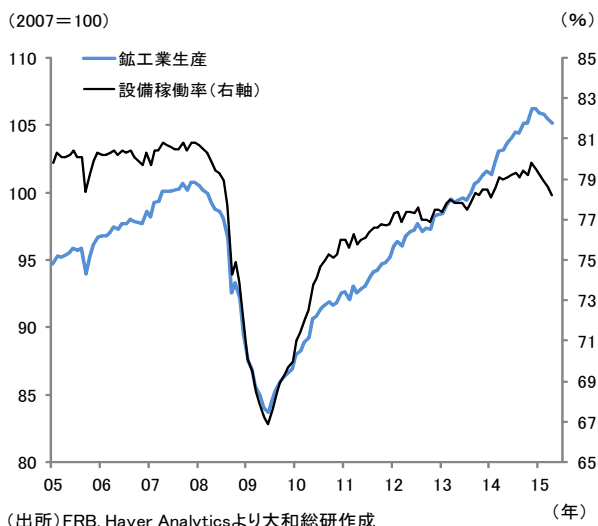
### 住宅価格



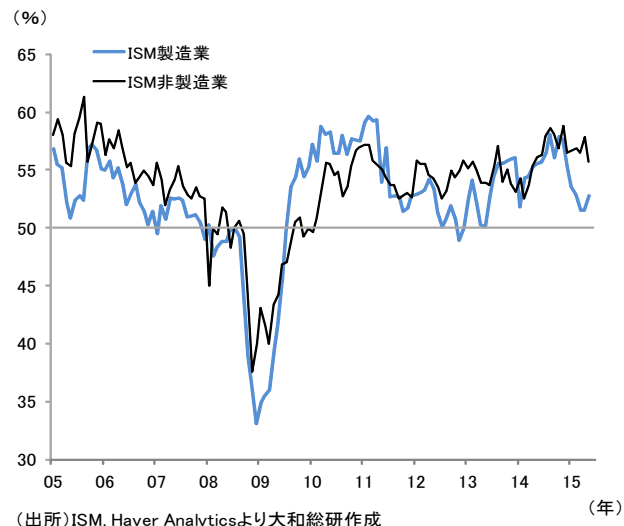
## 企業動向

- ◆ 4月の鉱工業生産指数は前月比0.3%低下し、5ヵ月連続で低下した。石油・ガス掘削から成る鉱業や、電力生産の落ち込みが影響した。指数全体の約7割を占める製造業は前月と同水準であった。
- ◆ 4月の国防・民間航空機を除く資本財受注は前月比0.3%減少した。ドル高などの影響により、低調である。
- ◆ 5月のISM製造業指数は、前月比1.3%ポイント上昇の52.8%であった。新規受注や雇用が伸び、7ヵ月ぶりに上昇した。一方、非製造業指数は、同2.1%ポイント低下の55.7%で、2014年4月以来の低水準となった。両指標ともに景気の拡大・縮小の分岐点である50%を上回る水準を維持しているが、製造業指数が低下傾向にある。

### 鉱工業生産と設備稼働率



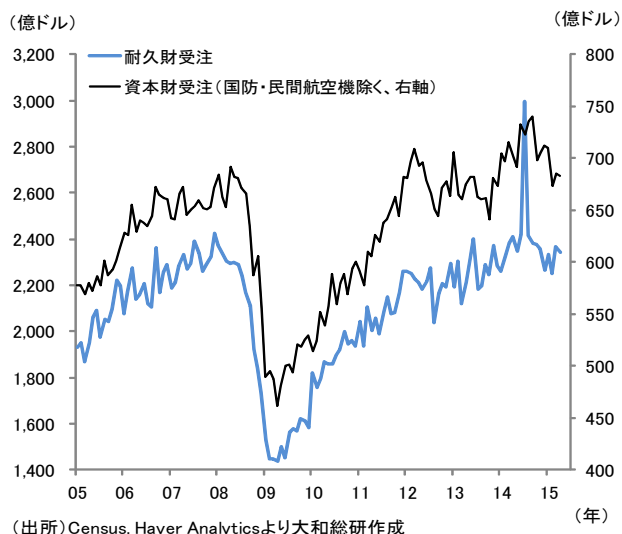
### 企業の景況感



### 製造業の出荷・在庫



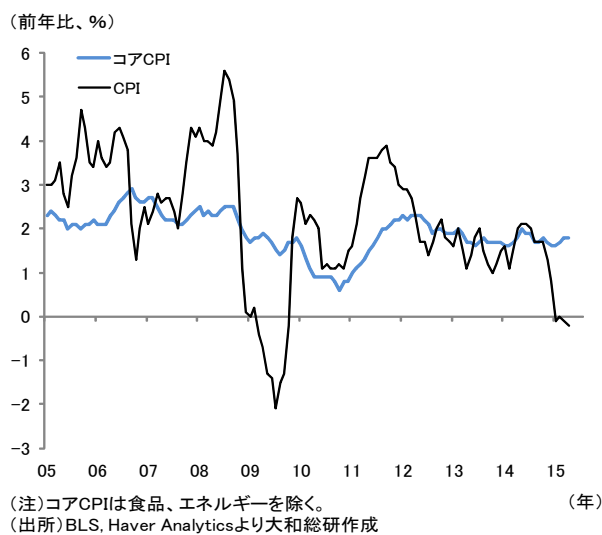
### 耐久財受注



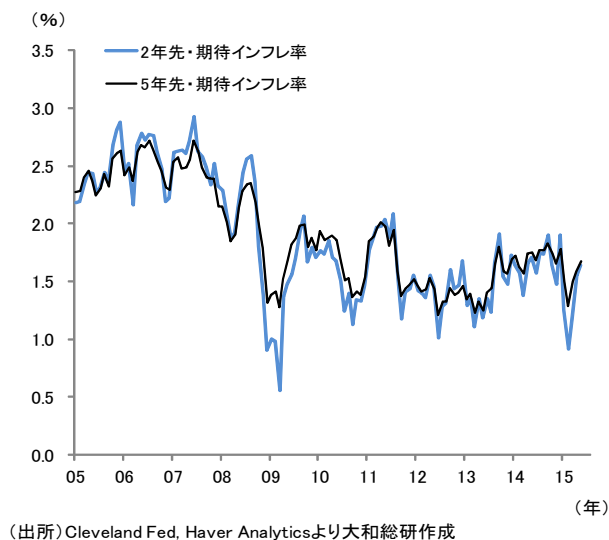
## 物価動向

- ◆ 4月のCPI（消費者物価指数）は前年比0.2%低下、コアCPIは同1.8%上昇した。ドル高や低い経済成長などからインフレ率の上昇が抑制されており、インフレ率がFRBの長期目標である2%を下回る状態が続いている。
- ◆ 5月の2年先及び5年先期待インフレ率は前月比で上昇した。原油価格の上昇に伴い、期待インフレ率が上昇した。
- ◆ 5月末のWTI原油先物価格は60.30ドル/バレルと、4月末の59.63ドル/バレルから上昇した。中東情勢への懸念や米国内の原油在庫が減少したことにより、価格が若干上昇した。

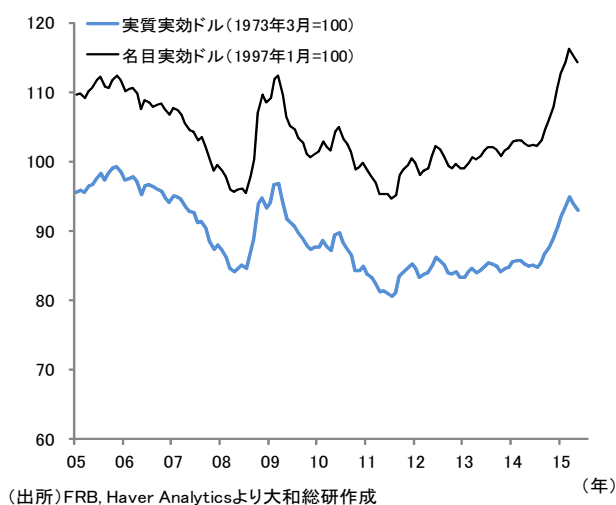
### 消費者物価指数



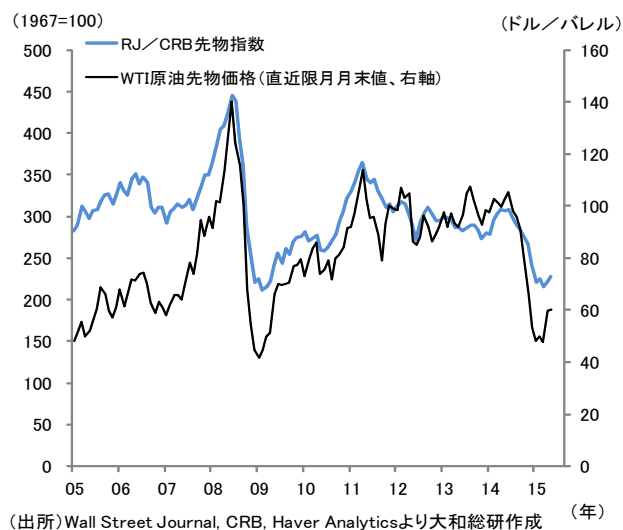
### 期待インフレ率



### 実効為替レート(ブロード)



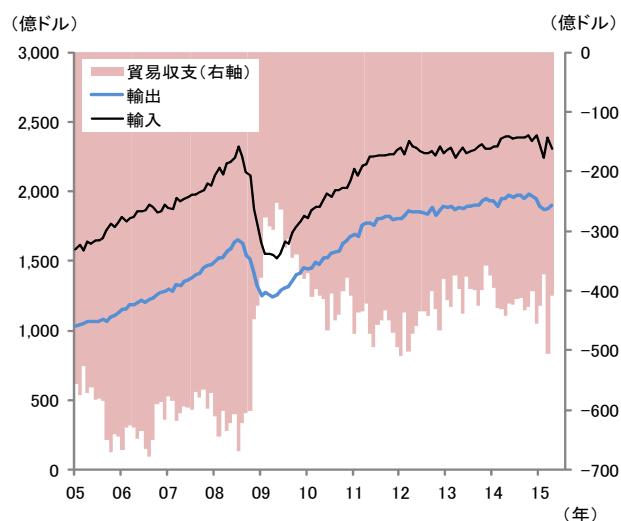
### コモディティ価格



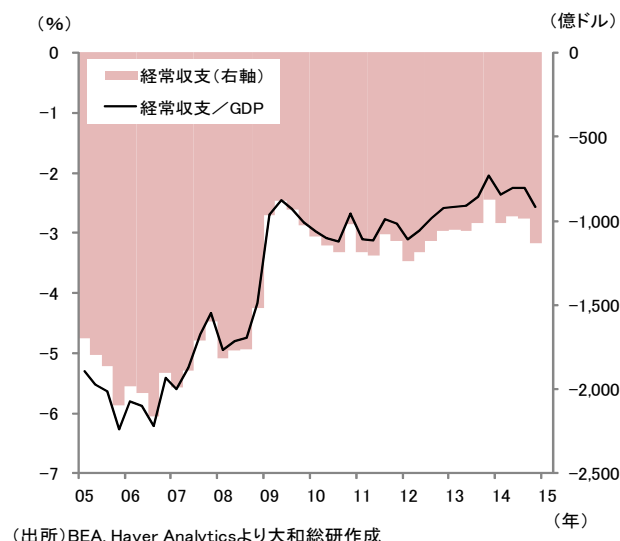
## 輸出入・経常収支

- ◆ 4月の貿易収支（財・サービス）は、輸出が前月比1.0%増加し、輸入は前月比3.3%減少した。輸出は、航空機をはじめとする資本財が増加し、一方の輸入は、携帯電話や衣料品が減少した。貿易収支の赤字は著しく拡大した前月から大幅に縮小し、前月比19.2%減の約409億ドルとなった。
- ◆ 地域別（財）では、日本への輸出が前年比5.7%増、中国向けが前年比3.2%増であったが、欧州向けは同1.5%減少した。輸入は、日本からの輸入が同12.1%増加したものの、欧州からの輸入は4.7%減、中国からの輸入も同1.5%減であった。日本からの輸入は、前年比で2012年7月以来の大幅な増加となった。

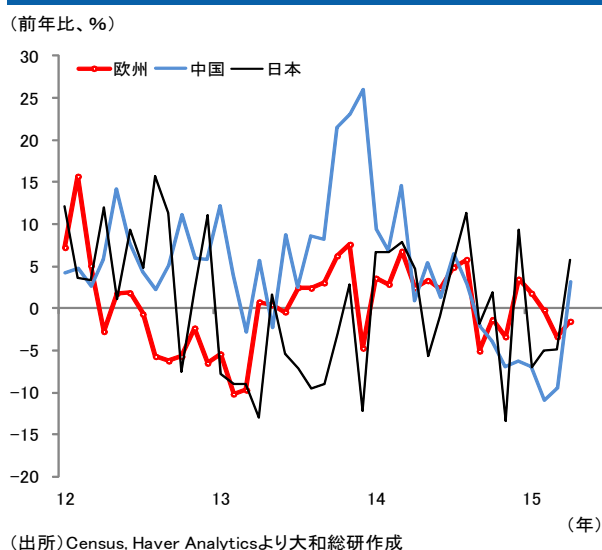
### 貿易収支動向



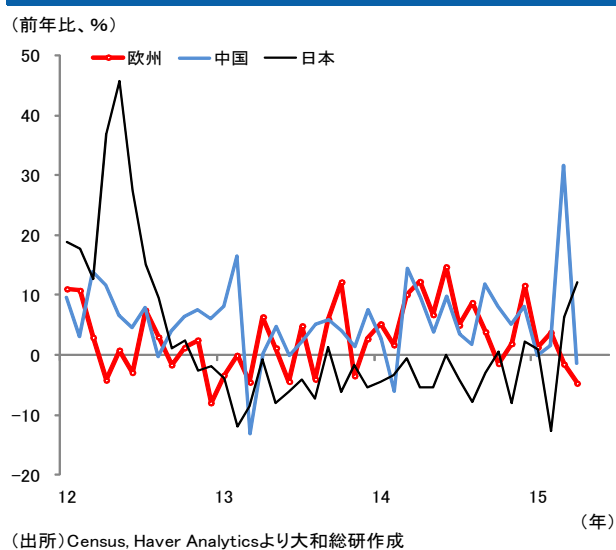
### 経常収支の推移



### 国・地域別輸出動向



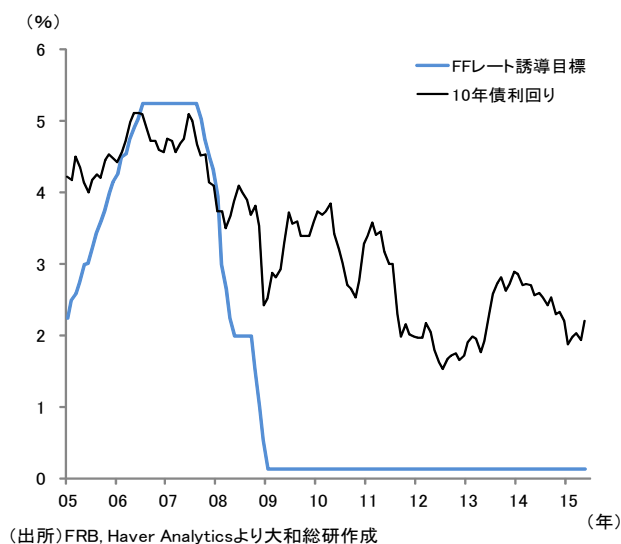
### 国・地域別輸入動向



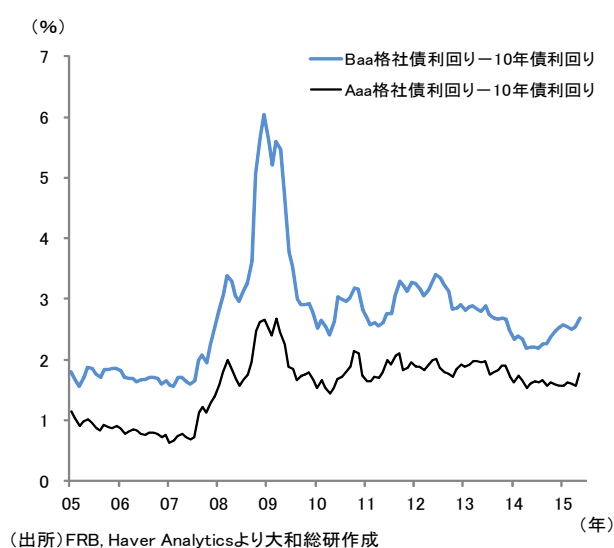
## 金融・財政

- ◆ 5月の長期金利（10年債利回り）の平均値は2.20%であった。2ヵ月ぶりに平均値が2%台に上昇し、2014年12月以来の高水準となった。原油価格の上昇によるインフレ懸念が高まり、国債の需要低下に伴い、長期金利が高まっている。
- ◆ 4月のFOMC（連邦公開市場委員会）において、事実上のゼロ金利政策の据え置きと、保有する資産規模の維持が決定された。FRBの資産残高は、直近の6月3日の週平均が約4兆5,100億ドルであった。
- ◆ 連邦政府の財政収支（12ヵ月平均）は、トレンドとして赤字幅が縮小している。

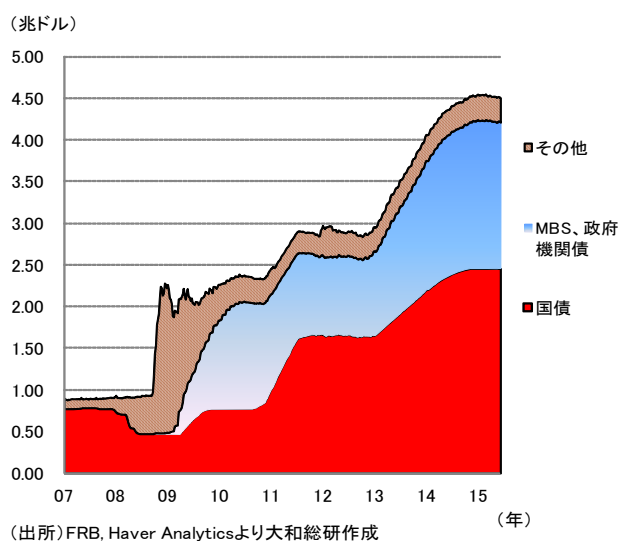
### 政策金利・長期金利



### クレジットスプレッド



### FRBの資産構成



### 連邦政府の財政収支

